

三浦市民生活向上会議会報

〒238-0102

神奈川県三浦市南下浦町菊名1258-3

三浦市総合福祉センター

電話 046-888-7347

発行：社会福祉法人三浦市社会福祉協議会

発行責任者：出口 道夫

VOL.2

第二回ボラ活動推進部会の開催

三月二十六日の第二回ボランティア活動推進部会では、平成二十五年度の策定を目指す、「第二次ボランティア活動推進計画」の目標や支援対象など、計画の「柱」となる部分の話し合いをしました。（杉崎）

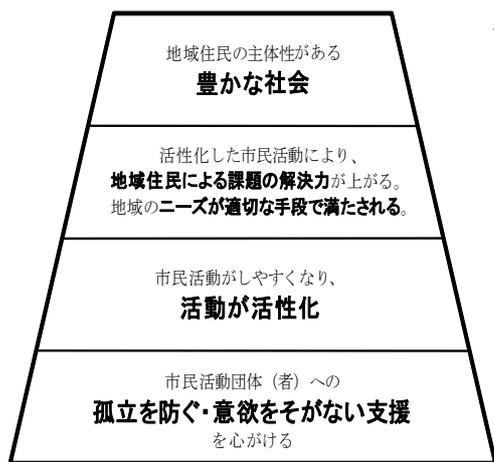
第二次ボランティア活動推進計画とは？

平成十八年に策定された「第一次ボランティア活動推進計画」（実施期間 平成二十二年度まで）の後継計画で、地域のために働く市民活動団体（者）へ更なる適切な支援（活動の促進）をしていくための計画です。今後ボランティア活動推進部会で話し合い、具体的な内容を考えていきます。

第二次ボランティア活動推進計画の目標

本計画の最大の目標は、「豊かな社会を目指す」とし、その目標達成へ至るための段階について確認しました。下図はそれをまとめたものです。

和解までに長く激しい対立を経た薬害エイズ訴訟の



最終的な到達目標は住民の主体的な活動がさかに行われ、ニーズが満たされる「豊かな社会」。そこに至るまでの過程はこのようになると考える。

そうなること、制度・政策ではまかないきれない分野での活動を行うことで、また、行政や制度への必要な改善を求めていくことで、多様な方向から地域の課題解決のための働きが起こり

前回（二月二十二日）の話し合いで「支援の対象者を明確にすべき」となり、今回の話し合いでも、公共性・利他性

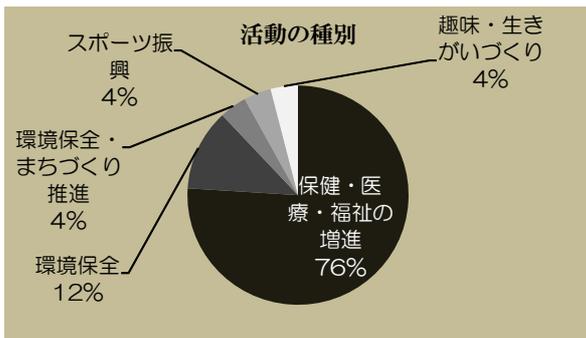
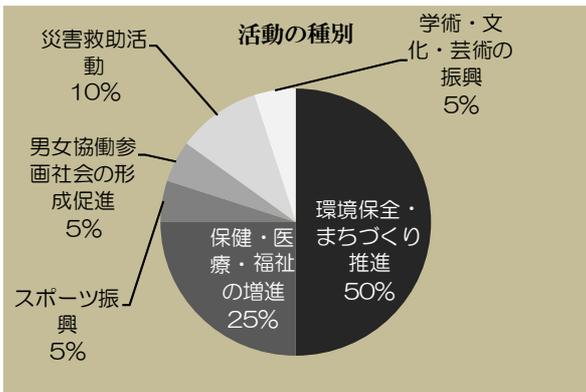
ように、社会の問題解決を図る市民活動団体は、行政にとつて必ずしも都合のいいことばかりではありません。しかし、問題解決への強い意欲を持ち、自らの資材や労力を投じる人たちが、社会から孤立させてしまうようなことがあってはならないと考えます。このように、市民が自ら気づき、達成したことが、実は

好結果をもたらして、後からようやく社会的に認められることは少なくありません。だからこそ、「社会から活動や存在の意義を認めて貰えない」「社協や行政との繋がりが感じられない」など、社会からの疎外感を感じさせ、やる気をそいでしまわないうような心がけた支援を考え、実行していきたいと思いません。そして、社協からの支援が市民活動団体（者）にとって実際に役に立つようになること、市民活動が以前よりやりやすくなり、活動が活性化します。



「第二次ボランティア活動推進計画」の目標や支援対象など、計画の「柱」となる部分の話し合いをしました。

第二次ボランティア活動推進計画における支援対象者



「性質」を持ち、保健・医療・福祉・社会教育・まちづくり・子どもの育成・災害・地域の安全・人権擁護の課題解決のための活動「ジャンル」を行っている団体者」という定義になりました。

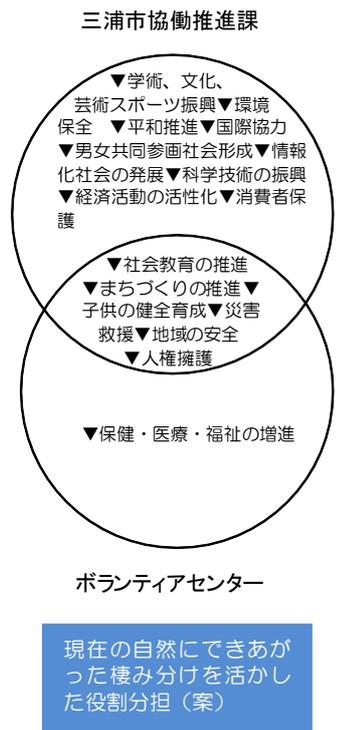
まず、活動のジャンルを指定した理由は、市の協働推進課との支援の棲み分けを図るためです。

現在、三浦市には市の「協働推進課」、三浦市社会福祉協議会「ボランティアセンター」と、市民活動を応援する機関が並立し、その関係性は分かりにくいものとなっています。左の表・グラフは、

市と社協の登録団体の種類を比較したものです。これを見ると、市は環境保全やまちづくり、社協には保健・医療・福祉の団体の登録が多いことが分かります。この自然な棲み分けを活かし、右図の分け方を考えました。

この支援の分担をはじめ、今後も部会での意見を集め、市へ提案していきたいと考えています。

次に、活動の性質については、公共性（広く社会一般の利害に関わる性質・度合）と利他性（他人の利益となるように図ること）を持つ団体（者）と定義しました。課題



◆自発性に基づかない活動について

・総合学習や福祉教育等、学校の授業の一環で「行ってきなさい」と指示を受けて行う活動

・大きなマラソンのイベントのように、人員配置からタイムスケジュールまで指定されて従事する活動

◆計画の意義について

「ボランティア活動推進計画」で定めるべきことと、もっと広い視点から「地域福祉活動計画」に盛り込むべきこと

とを区別して、それぞれの計画の意義が、薄まらないようにすべきであるという意見が出ました。

◆今後の予定

課題に即した計画を立てるために、地域住民へのアンケートを実施したいと事務局から提案したところ、活動団体や、学生からも声を聞いてみたいという意見が挙がりました。また、計画を実施した成果を見るための成果指標をつくっていききたいと思えます。(杉崎)

◆今後検討していきたいこと

・地域の問題を地域で解決しようという視点を持つ団体者への支援を厚く行っていききたいと思えます。

前に例示したものは、社会では「ボランティア」などとは括れがちですが、実際には外圧を受けて行う、本人の自発性に基づかない活動であり、本計画における「ボランティア」「市民活動」とは異なるという意見が出ました。

しかし、受動的に始めた活動からきっかけを掴み、自ら進んで活動をしたくなったときの道案内ができるよう、ボランティアに関する初歩的な講座の開催や、学校との連携による相談に結びつきやすい体制づくりを考えるべきであるという話し合いになりました。

現在アンケート案を作成中です。市民活動について素の意見をたくさん聴かせて頂きたいと思っております(杉崎)▼とりわけレイアウトや色校正で杉崎と意見が合いません(佐藤)▼委員の皆様からの活発なご意見が刺激になっています(高井)

編集後記

次回のボラ部会は、四月二十五日。オブザーバー大歓迎です。